

ワークショップの実施報告

(1) 開催目的

- ・次期都市計画マスタープランの策定等に向け、市民等への情報提供と意見収集を様々な手法により行い、得られた意見を適宜検討に反映する。
- ・若者をターゲットにしたワークショップは、その一環として、自由な視点かつ外からの視点で、相模原市のイメージや将来の都市づくりに対する意見や想いを計画策定に活かしていくために実施した。

(2) 開催概要

項目	内容
名称	さがみはらユースフォーラム ～若者による未来のまちづくりワークショップ～
開催日時等	平成30年3月12日(月) 13時～17時
開催場所	職員研修所大研修室
意見収集の方法	ワークショップ方式
参加者募集方法・参加者数	・市職員しごとセミナー(2/24開催)で告知(参加者募集) ・都市計画審議会小委員会の各委員からのご紹介 ・参加者 20名

(3) 意見交換の方法とテーマ

①方法

- ・意見交換は、ブレインストーミングにより、参加者からたくさんの意見を収集するものとした。
- ・会場全体を4テーブルに分けて、共通のテーマについて意見交換を実施した。

②テーマ

- ・数多くの意見を収集できるよう以下のテーマで実施した。ワークショップで頂いた意見は、都市づくりの課題や基本方針等の検討に際して、参考とすることを念頭に置く。

人口減少や高齢化が進行する中で、中山間地域のみならず、都市部においても空き家が増加するなど、都市のスポンジ化が問題となっている中で、これからの「住みたくなるまち」「働きたくなるまち」とは？

(視点の例)

- ・理想的なライフスタイルのイメージは？
- ・魅力的な都市としての必要な施設や機能は？
- ・定住促進策として有効な取り組みは？

(4) 全体プログラム

所要時間	時刻	内容
15分	13:00	1. 開会 ・相模原市からの開会のあいさつ ・配布資料の確認 ・本日の流れの説明 ・ワークショップ開催の目的及び趣旨説明
45分	13:15	2. アイスブレイク ・自己紹介と合わせて、各自の相模原市のイメージ・魅力の発表 ・各班代表が結果を発表
30分	14:00	3. 相模原市のいまとこれから ・市の概要、人口減少化における課題、市の強みや取り組みを説明
5分	14:30	4. 班別ワークショップ 【ワークショップの進め方の説明】 ・テーマの説明 ・ワークショップの進め方、注意点・マナー(エチケット)等の説明
45分	14:35	【班別の意見交換】 ・各自の意見を付箋に書き出し、各自の意見を発表
15分	15:20	・意見を要素ごとにグループ分け ・グループごとにタイトル付け
10分	15:45	・全体を要約
30分	15:55	5. 全体発表 ・各班代表が結果を発表 ・振り返りアンケートの記入
5分	16:25	6. 閉会 ・相模原市からの閉会のあいさつ ・事務連絡等



(5) 意見概要

①「相模原市のイメージ」について

全テーブルで出た意見を整理した意見まとめを以下に示す。

	魅力・良い点
活力	<p>～リニア開通、小田急多摩線延伸、補給廠一部返還地など新たな都市づくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア開通による橋本駅周辺の都市整備（まちづくり）[2] ・小田急多摩線の延伸により、人の交流が活発になる[1] ・基地一部返還による再開発
都市交通	<p>～都心へのアクセス性など高い交通利便性～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央区、南区、橋本周辺は交通の利便性が良い[2] ・都心への交通の便が良い ・圏央道の開通によるアクセスの改善 ・交通の利便性による工場の集中
自然環境	<p>～緑区の豊かな自然と市街地の身近な緑～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然・緑が多い[4] ・緑区は山や湖、川など自然が豊か[3] ・自然と触れ合える場所が多く、身近に感じられる[2]
生活環境	<p>～活気ある市街地と豊かな自然環境～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と都会が共存している[5] <p>～主要駅を中心に充実した買い物環境～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングモールなど主要駅の周辺が活発 ・最近、住宅街でも新しいお店などが出来ている ・買い物に困らない <p>～首都圏の住宅地として発展～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心のベットタウン ・職と住が混在している地域が多い <p>～強固な地域コミュニティ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらのあたたかさを感じられる
防災	<p>～内陸に立地し、地盤が強固～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤が強い
地域資源	<p>～スポーツチーム、大学、宇宙科学など多様な資源～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームタウンのスポーツチームが多くある[3] ・大学が多く、まちと若者（学生）の連携活動が盛ん[3] ・宇宙科学に力を入れている（はやぶさなど） ・釣り、カヌーなどアウトドアができる ・お祭りが盛ん ・イルミネーションの名所がある（プレジャーフォレスト） ・ドライブが楽しい ・観光客が増えている

	残念な点・改善すべき点
都市づくり	<p>～都市部と中山間地域の連携・交流～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併して、数年が経過したが、一体感が薄い[3] ・緑区の高齢化の進行による空き家の発生や林業の衰退[2] ・市内で地域差がみられる[2]
都市交通	<p>～緑区の交通利便性の改善、交通渋滞の解消、公共交通の利便性向上～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑区の交通利便性が低い[4] ・渋滞の発生[1] ・自転車事故が多い ・休日の終バスが少ない ・公共交通の乗り継ぎが不便な箇所がある
生活環境	<p>～都市機能の充実～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原にある駅周辺の活発さが他の市や県と比較して足りない ・若者の遊べる場所が少ない ・これといったものがない <p>～環境問題の解消～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米軍基地など騒音、振動
魅力発信	<p>～国内外に向けた積極的なシティセールス～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食やお祭りなど資源はあるが、市内外ともに認知度が低い[5] ・東京オリンピックを見据え、国内外の観光客の増加[1]
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致 ・子育てしやすいまちづくり（定住政策）

[○]類似意見の数

②「これからの「住みたくなるまち」「働きたくなるまち」について

テーブルごとにとりまとめた結果と、全テーブルに共通する事項を整理した意見まとめを以下に示す。

<1班>

目指す都市像				
「住みたくなる、働きたくなる相模原」				
多世代居住	雇用・労働	子育て	人の受入れ	観光
子供から高齢者まで様々な世代が安心して住めるまちづくり	ワークライフバランスのとれたまち	子育てしやすいまち（育休・保育所・教育等の充実）	上京してきた時に便利なまち、外国人にインパクトのある文化	観光客増加による駅の維持と居住者の増加



求められること（分野別）			
商業振興	公共交通等の充実	環境・水とみどり・景観づくり	その他
<ul style="list-style-type: none"> 若者が集まる商業施設、昔ながらの食べ歩きが楽しめる場所、家族が休日に遊べる広場やショッピングができる場所づくり等 	<ul style="list-style-type: none"> 基幹交通とフィーダース・パーク&ライドの整備 コンパクトシティに向けた路面電車整備 渋滞軽減等 	<ul style="list-style-type: none"> 緑を利用した子供向けのキャンプや体験イベントの実施 景観づくり（花畑等） 子どもが安心して遊べる公園整備等 	<ul style="list-style-type: none"> 留学制度などの外国人の取り込み 街灯等の整備

<2班>

目指す都市像	
中央区・南区	緑区
若者があこがれるまち・ベッドタウン1位（中央区・南区は積極的に人口を増やす）	中央区、南区の人に身近な自然を提供するまち 企業向けのまちづくり



求められること（中央区・南区）	
具体的なレベル	町田、八王子と同じくらいのレベルの商業地があってもよい
取組を行う場所	橋本駅周辺と相模原駅周辺を一体としたエリア（近いので1つにまとめてよい）
あこがれるまち・ベッドタウン1位に向けて必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> 子育て、防災に力を入れる ショッピングモールではなく个性的なお店が集まるような商業集積 補給廠跡地への市役所移転 工業等の駅間を分断する土地利用の解消等
求められること（緑区）	
緑区へのオフィス誘致（中央区、南区に住み緑区へ出勤）	
学生就職後の市外への流出防止	
求められること（共通）	
相模原市のPR（SNSの活用、PR動画作成、定期的な情報更新・発信）	

<3班>

目指す都市像					
先進的部分と昔ながらの部分があるまち	居住の多様性の明確化	ワークバランス、パパクォータ制度の普及	多世代に対応したまちづくり	市民の意識向上	近所づきあいがあるまち



求められること（分野別）			
観光振興	土地活用	交通の改善	景観・文化の継承
<ul style="list-style-type: none"> もう一度来たいと思うような観光事業 回遊性の創出 行事との連携 シティーセールス等 	<ul style="list-style-type: none"> 比較的安価な土地の活用 行政主導による集約化 子育て世代への提供 駅周辺の空地空き家の住宅・民泊としての活用 	<ul style="list-style-type: none"> 地下道や歩道橋の整備等による渋滞解消 自転車の通行空間確保 都市部でのシェアサイクルの導入等 	<ul style="list-style-type: none"> 田園風景の保全⇒開発の適正な抑制 伝統行事や文化の継承⇒地域内外の交流

<4班>

目指す都市像
「帰ってくるまち相模原」



求められること（地域別）		
山間部	都市部	共通
<ul style="list-style-type: none"> フォトコンテスト（SNS利用）、名物PR、バスツアー等の観光強化 子育て世代が休日に日帰りで行ける、自然と触れられるまちのPR 中山間地域のアクセス改善等 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の交通安全整備 市内や近辺の大学に通う学生への支援（住居、暮し） バリアフリーの整備（駅周辺） 企業誘致等 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の憩いの場、子どもの遊び場づくり（空き家の活用等による） 資源が万能、何でもできるまち 地域別の特色のPR 市民との協議プロジェクト等

<全体のまとめ>

<p>【目指す都市像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆これからの「住みたくなるまち」「働きたくなるまち」の都市像としては、「多世代が住みやすいまち」「ワークライフバランスのとれたまち」「ベッドタウン1位」が挙げられており、居住地として魅力あるまちが求められる結果となった。 ◆また、「昔ながらの部分があるまち」「近所づきあいがあるまち」といった、全国的に失われつつあるものを維持することを求める意見が挙げられている点が、1つの特徴となっている。 <p>【求められること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆目指す都市像の実現に向けて求められることとしては、「若者や子育て世代等が集まる商業地形成」「子育て環境整備」「自転車利用環境整備」「観光振興」「シティープロモーション」が多く挙げられている。 ◆観光振興の具体的な取組として、主に中山間地域の自然等の魅力を活用したイベント実施等が挙げられており、観光客の増加による地域活性化が求められている。 ◆人口減少への対応として、近隣市町村も含めた大学に通う学生や外国人等の取り込み、就職後の人口流出防止についても求められている。一方で、中央区・南区では、利便性の高い環境や今後見込まれる大規模プロジェクトの効果等を活かし、積極的な人口集積を目指していくべきとの意見も挙げられている。
